

# 浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成31年3月

第47号

## 法要のころ

大切な方がお亡くなりになりますと、通夜、葬儀を厳粛に勤めますが、人の絆が大切だと言いながら近頃は家族葬で済まそうとする方がおられます。これはどうしたことでしょうか？

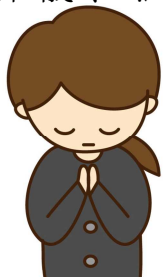
そして気になることは、火葬場の行き帰りの道を変更することです。これは亡くなった方に帰ってこられては困るので迷わすためだと言います。それなのにお盆には迎え火を焚いて亡くなった方を迎えようとします。おかしいとは思いませんか？

もう一点、茶毘に付された御遺骨を拾われ家に戻りますと、玄関前で清め塩を使い身を清めるようですが、浄土真宗では清め塩は使いません。なぜなら大切な方の死を汚れとは思わないからです。

葬儀の後は亡くなられた日を数え7日目が初七日です。それから二七日、三七日、四七日・・・七七日（四十九日のことで正しくは満中陰と申します。）と昔は勤めたものですが、この頃は簡略化し、初七日の後のお勤めは満中陰法要となり埋葬をするようです。

この四十九日も「始終苦が身に付く（3月）」と言って3ヶ月に亘っての法要を嫌うという迷信にとらわれる方もいることは恥ずかしいことです。

葬儀、法要を勤める大切なことは、亡き人を偲ぶ中に、私は何の為に生まれ、何の為に生き、死んだらどうなるという人間の本質の問題を仏法に聞いていくことだと、ここに婦人会の定例法話でお聞かせいただいたことを紹介させていただきます。合掌



## 定例法話のお知らせ

毎月8日は本弘寺定例法話の日です。午後1時より本堂にてお勤めの後、住職による御法話がございます。

楽しい語り口で優しく仏教の教えを聞かせてくださいます。婦人会以外の方も是非ご参詣ください。

※1月と5月は午前11時からとなります。

# 新年会

1月8日11時より本堂にて定例法話、正午より新年会が行われました。今回も皆勤賞10名、精勤賞4名には嬉しい賞品が手渡されました。美味しいお食事をいただきながら、ゲームや歌、そしてビンゴ大会と楽しいひとときを過ごしました。



## 婦人会に入会して

相模原の住民になって50数年、色々なことが思い出されます。昨年縁あって本弘寺さんの檀家となり婦人会に入会させていただきました。今まで遠くから見ていたものが近くに感じられます。初代の住職、坊守、檀家さんから始まり現在まで本当に皆様の温かい心に守られてきました。有り難うございました。残された人生、私なりに勉強と努力でどこまでできるか分かりませんがゆっくりと頑張ります。

日曜礼拝は1週間の力をいただきます。最初は寒い、雨だ、雪だと欠席がちでした。そんな中、遠方から参詣する人、身体の不自由を支えながら聴聞に来られる方々を見て、目の前のお寺さんに行かなければと自分に言い聞かせる私でした。法話も聴いているときはわからなくて困ったと思うこともあります。最近わかることも増え、嬉しさを感じています。何事もゆっくりゆっくり頂くようにしていますと、時期が来るとわかることもあるのだなと感じています。そのあとのお茶会はそれぞれの話しでとても賑やかで楽しいです。覚えが悪くなり、耳も遠くなり身体も衰えていきますが、愚痴を言わず日々努力していきます。どうぞよろしく願いいたします。

岩澤好子

## 新しい仲間を紹介いたします。

金子道子さん、1月より入会いただきました。青葉1丁目にお住まいです。顔見知りの会員の方もおられ、皆さんとすぐに打ち解けてくださいました。これからご一緒に活動できることを楽しみにしております。よろしく願いいたします。